

北海道グローバル人材育成キャンプ

道北・ネイパル北見会場
令和元年8月20日
(主管教育局 根室教育局)

令和元年8月5日(月)～7日(水)の3日間、ネイパル北見を会場として、国際社会において主体的に行動できる資質・能力と、異なる言語や文化、生活に対する理解と関心を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、道北キャンプを開催しました。

本キャンプでは、オホーツク、石狩、上川、釧路管内の高等学校から22名の高校生が参加し、講師によるワークショップやコミュニケーション活動に積極的に取り組みましたので、その様子を紹介します。

1日目

○ 英語活動1・2

参加者は、活動を共にするメンバーとの交流を深め、キャンプでの目標を記したチームフラッグを作成し、発表を行いました。

その後、参加者は「自分の町のグローバル化」についてスピーチを行い、変化している全道各地の様子に理解を深めました。



【チームフラッグ】



【参加者スピーチ】

○ ワークショップ1 (講師：北海道ハイテクノロジー専門学校 齊藤 雄大 氏)

講師から、御自身がアメリカに留学した経緯、現地での語学学習や障がい者福祉施設におけるインターンシップ経験について紹介がありました。その後、参加者は、体育館で車椅子バスケットに挑戦しました。



【講師からの説明】



【車椅子バスケット】

○ ナイトプログラム

A L Tが持参した楽器等を活用して、参加者はアメリカのフォークダンスに挑戦したり、アイルランドのハーリングという球技に挑戦するなどして、教室を離れて自由な雰囲気、異文化に触れるとともに、A L Tと会話を楽しみました。



【フォークダンス】



【ハーリング】

2日目

○ ワークショップ2 (講師：JICA帯広 古川 浩一 氏)

講師から、青年海外協力隊員として赴任したシリアでの体験について紹介があり、参加者は、シリアの現状について理解を深めました。その後、参加者は「非常時にカバンに何を入れて逃げるか」について、グループになり話し合いました。



【講師からの説明】



【グループでの話し合い】

○ ワークショップ3・4（講師：ALT）

キャンプの運営に協力いただいたアメリカ、カナダとアイルランドのALTから、多民族国家におけるグローバル化の様子について説明があり、参加者は「グローバル社会でのよりよいコミュニケーション」について理解を深めるため、様々な振る舞いやエチケットをもつ想像上の国の国民になりきって、異文化を体験する活動に挑戦しました。



【ALTからの説明】



【異文化を体験する活動】

○ 英語活動3～5

「グローバル社会で私たちができること」をテーマに、グループごとに現状を分析し、日常生活の中で無理なく取り組める提案やそれを支持する理由などを話し合い、翌日のプレゼンテーションに向けてパワーポイントの作成に取り組みました。



【プレゼンテーション準備】



【リハーサルの様子】

3日目

○ 英語活動6（助言者：東京農業大学 松村 寛一郎 氏）

各グループによるプレゼンテーションでは、「観光地で絵文字を活用したパンフレットを配布する」、「古い電化製品を回収し発展途上国に寄付する」などの魅力的な提案がありました。



【プレゼンテーション】



【助言者から説明】

助言者からは、各グループのプレゼンテーションに対するコメントをいただくとともに、「グローバル社会で生きる日本人として、オホーツク管内や北海道、日本のために何ができるかについても普段からしっかり考えてもらいたい。」との話がありました。

○ キャンプを終えて（生徒の感想や意見）

- ・ キャンプ参加前はあまり自信がなかったが、今回参加してALTに助けをもらい、英語で話すことが怖くなくなった。
- ・ 学校の授業で異文化を学ぶことはあるけれど、実際にネイティブスピーカーの話を3日間に渡って聞くことは初めてだったので、とてもよい機会になった。
- ・ 今後の進学先や就職先でも英語や国際交流に関わっていきたいと考えているので、今回のプログラムはとても貴重な時間になりました。3日間ありがとうございました。
- ・ 初めて出会った友達と英語で交流することによって、失敗を恐れないことや英語の楽しさを学ぶことができ、とても中身の濃い3日間でした。



【参加者全員で】